

【様式】

令和5年度 学校マネジメントシート

学校名（ 城山特別支援学校 ）

1 目指す姿

(1) 目指す学校像		子どもたちの笑顔があふれ、豊かな学びができ、生活力が高まる学校
(2)	育みたい 児童生徒像	多くの人と出会い、たくさんの経験や体験を通して、自分の生き方を選択できる力をつけ、豊かな生き方ができる子ども
	ありたい 教職員像	○目指す学校像を念頭に置き、子どもの可能性を信じ、子どもの生き方や考え方を尊重し、子どもに寄り添い、子どもの力を伸ばすことに取り組める教職員 ○子どもや保護者、同僚との対話を重ね、豊かな関係を築くことができる教職員

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待	<児童生徒> ○一人ひとりの性格や特徴、障がいを理解し、世界が広がる生き方を応援してほしい。 <保護者> ○子どもたちが楽しく生き生きと過ごせる環境を作り、社会の一員として生きる力を身につけさせてほしい。 <地域社会> ○子どもたちが様々な体験や経験を積み、社会の一員として地域で生活できるよう、子どもたちの活動を広げてほしい。	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待
	<児童生徒> ○毎日安心して楽しく学校生活を送りたい。 ○自分の夢や願いをかなえる手助けをしてほしい。 <保護者> ○安心安全で楽しい学校生活を送らせてあげてほしい。 ○子どもの育ちを共有し、信頼して様々な相談ができる存在であってほしい。 <関係諸機関> ○児童生徒が安全安心に学校生活を送れるよう支援する存在であるとともに、関係者間で連携しながら成長を見守るパートナーであってほしい。 <地域社会> ○学校の活動内容について十分に知ることができ、活動に協力できる。	<児童生徒> ○体調を整え元気に楽しく登校してほしい。 ○自分の夢や将来像に向かってチャレンジする意欲を持ってほしい。 <保護者> ○子どもたちが充実した学校生活を送るうえでのパートナーであってほしい。 ○教職員との信頼関係のもと、子どもたちの生き方を応援してほしい。 <関係諸機関> ○子供たちの成長をともに見守るパートナーとして本校教育に協力いただきたい。 <地域社会> ○ともに子どもたちを育むための一員となしてほしい。
(3) 前年度の学校関係者評価等	○教育活動については概ね目標が達成されており学校の努力が感じられるので、今後はさらに未達成の目標が実現されるよう願う。 ○保護者連携は極めて重要であり、今後一層しっかりと寄り添えるよう努力いただきたい。 ○コンプライアンス研修にあたっては「自分事」としてのとりえが重要であり、教職員に対する意識醸成については今後も工夫しながら進めていきたい。 ○防災についての意識改革は地域一帯の課題といえる。発災を想定した引渡し訓練の実施や危機管理に関するマニュアルの確実な運用に向けては地域や関係機関との連携も重要になる。	

(4) 現状と課題	教育活動	○児童生徒のよりよく生きようとする力を育むため、教職員が児童生徒の変化への気づき、対話や情報共有を通して効果的に授業改善を進めていくことが必要。 ○障がいや重度重複化・多様化の傾向にあるため、特に自立活動について授業力や指導力を向上させることが必要。 ○教科横断的な教育活動において、個々の教科のねらいについての的確な評価をおこない、成果の積み上げが着実なものとなるよう、教育課程や指導方法を再検討することが必要。
	学校運営等	○児童生徒にとって学校がより安全安心な場所であるよう、医療的ケアや危機対応時の体制について、一人ひとりの教職員が最新の知見と的確な対応力を獲得することが必要。 ○学部や分掌を超えた連携や、デスクネットの更なる活用、ペーパーレス化を進めることにより業務を効率化し、業務の偏りを解消して時間外労働時間を縮減することが必要。

3 中長期的な重点目標

教育活動	○児童生徒の多様な教育的ニーズを丁寧に把握し、発達段階や身体状況をふまえた系統的な指導、特に授業改善に注力することで教育力の向上を図る。 ○個々の児童生徒が自己肯定感を高め、適切に仲間作り、人間関係作りができるよう人権教育を推進するとともに、交流及び共同学習の促進によって児童生徒が地域で生き生きと生活できる姿をめざす。 ○医療、福祉、労働等関係諸機関と緊密に連携する中、在学中から児童生徒の将来を見据えた自立と社会参加を促進するための取組を推進する。 ○児童生徒の安心安全な学校生活を実現するため、日常の医療面に係る留意に加え、感染症や自然災害等への備えも含めた教育環境の整備や防災対策の取組を推進する。
学校運営等	○「信頼される学校であるための行動計画」をふまえ、人権を重んじた真摯な態度で教育活動に取り組むことでコンプライアンス遵守の徹底や人権意識の向上を図る。 ○地域に根ざした特別支援学校として、センター的機能を発揮し、中勢地域の特別支援教育の推進に向けた各種支援を展開する。 ○全教職員が生き生きと仕事ができる風通しの良い職場風土を醸成するとともに、学校全体の業務内容や業務の進め方を絶えず点検し、改善につなげることで教職員の業務の平準化を図るなど、教職員の働き方改革に留意した取組を推進し、働きやすい学校をめざす。

4 本年度の行動計画と評価

(1) 教育活動

項目	取組内容・指標	結果	備考
個々の教育的ニーズへの対応	○保護者の意向を汲み取った「個別の指導計画」「個別の教育支援計画」を丁寧に作成し、児童生徒の発達段階や身体状況に即した系統的な指導を進める。 ○新たに編成した教育課程を適切に運用できるよう、授業力、指導力の向上に係る学部や縦割りの研修を積極的に実施し、その充実を図る。 【活動指標】 ①的確な実態把握と将来を見通した個別目標の設定 ②学習の系統性を重視した授業改善、観点別評価の実施 ③再編した教育課程の妥当性・実効性の検証 ④保護者対象「学校満足度調査」による教育活動の評価 【成果指標】 ①学部内、クラス内における「個別の指導計画」等の共通理解と指導方針の点検及び保護者との共有：随時 ②授業力向上に係る学部・縦割研修の実施：各部10回以上 ③教育課程に係る全校研修会：2回 ④保護者対象「学校満足度調査」結果に「総合的に満足している」と回答した割合：90%以上	成果指標①：達成 個別の指導計画の点検 各学部：4回 成果指標②：達成 授業力向上研修 各学部：10回 縦割り研修：6回 成果指標③：達成 教育課程検討 全校研修会：4回 成果指標④：達成困難 学校満足度調査 回答割合：76.9%	

児童生徒の尊厳を重んじる人権教育の推進	○個々の児童生徒が自己肯定感を高め、適切に仲間作り、人間関係作りができるよう支援する。 【活動指標】 ①人権週間やいじめ防止月間の取組を中心に仲間を大切にする活動の推進 ②障がいのある子と障がいのない子の交流及び共同学習による相互理解の推進 【成果指標】 ①仲間づくりを大切にした児童生徒会活動の実施：年7回 ②居住地校交流の実施：一人あたり3回以上	成果指標①：達成 生徒会活動：7回 成果指標②：達成困難 居住地校交流：20回 1回…小3名、中1名 2回…小7名、中1名	
体験を重視したキャリア教育の充実	○児童生徒の将来を見据え、自己の経験がキャリアとして積み上がるよう体験的な学習を推進する。 【活動指標】 ①計画的、段階的な校外学習、宿泊学習等の実施 ②系統的、段階的な現場実習の実施 ③児童生徒の進路実現に向けた進路懇談・支援会議等の開催 ④児童生徒の進路指導に係る情報発信 ⑤保護者向け進路研修会等の企画立案 【成果指標】 ①体験的な活動を含む宿泊学習：各学部1回 ②自己の進路決定につなげる職場実習：高等部1人1回以上 ③進路懇談・支援会議の実施：対象者1人1回以上 ④進路通信「城山コラボ」の発行：年間6回以上 ⑤保護者向け進路研修会・施設見学会の開催：年1回以上	成果指標①：達成 宿泊学習 各学部1回ずつ実施 成果指標②：達成 高等部職場実習 高1：4名（4回） 高2：4名（4回） 高3：12名（22回） 成果指標③：達成 進路懇談：20名 支援会議：12名 成果指標④：達成 進路通信：6回 成果指標⑤：達成 保護者向け研修：3回	
安心安全の確保と防災等危機管理の推進	○児童生徒が安心安全に学校生活を送れる環境作りとしてスクールバスの運行、医療的ケアの実施、防災対策の取組を推進する。 【活動指標】 ①スクールバスの安全な運行とマニュアルの見直し ②-01 医療的ケアの安全安心な実施 -02 個別の緊急対応マニュアルの見直しと訓練の実施 ③現実的な防災を想定した避難訓練の実施 【成果指標】 ①スクールバス委員会による運行上の課題解決とマニュアルの点検及び見直し：随時 ②-01 医療的バックアップ委員会による安全確認：隔月 -02 緊急対応マニュアルに基づく訓練の実施：4回 ③-01 発災種別毎の避難訓練の実施：年3回 -02 保護者引渡、スクールバス避難の訓練実施：各1回	成果指標①：達成 S B委員会開催：7回 成果指標②-01：達成 医バック委員会：8回 成果指標②-02：達成 緊急対応訓練：4回 成果指標③-01：達成 避難訓練：3回 成果指標③-02：達成 保護者引渡訓練：1回 S B避難訓練：1回	

改善課題

- 「個々の教育的ニーズへの対応」について、各種研修や授業配信等を計画に沿って円滑に実施できた一方、「学校満足度調査」の目標値が大きく下降した（未回答も増加）。これは同調査の指標を前年度と変更し、総合的な満足度に改めた結果であり、今後保護者のニーズをより真摯に受け止め、教育実践に還元していくことが求められる。
- 「命を大切にする教育、人権教育の推進」では、前年度に引き続き居住地校交流が目標達成に至らなかった。コロナ禍後にあっても感染症不安が継続する中、依然として小中学校との交流が消極的であったことが原因と考えられる。次年度以降、あらためて取組を積極的に進める必要がある。
- 「体験を重視したキャリア教育の充実」では、全ての指標について目標達成でき、一定の成果を上げることができた。新規に保護者向け研修会も開催できたことから、今後も取組を継続・発展させていく必要がある。
- 「安心安全の確保と防災等危機管理の推進」は、本校教育の基盤を担保することであり、目標が一定達成できた。ただし防災対策等では直近の震災例から対策には相当に深刻な想定が必要になると判断され、保護者や地域と課題を共有し、根本的な対応策を新たに講じる必要に迫られている。

(2) 学校運営等

項目	取組内容・指標	結果	備考
信頼される学校作り	○コンプライアンス遵守の徹底や人権意識の向上により、信頼される学校づくりを推進する。 【活動指標】 ①学校信頼向上委員会や人権教育担当による教職員のコンプライアンス徹底の取組 ②個人情報の保護、管理の徹底 【成果指標】 ①児童生徒の尊厳を重視した人権研修の開催：年2回 ②不祥事チェックシートの実施：各学期1回	成果指標①：達成 人権研修：4回 成果指標②：達成 チェックシート：3回 (各学期)	
地域への情報発信とセンター的機能の充実	○地域の特別支援教育の推進に寄与するために積極的な情報発信に努める。 ○地域の小中学校等からの要請（主として肢体不自由教育に関わる内容）に応じた支援を展開する。 【活動指標】 ①学校HPによる情報発信と掲載内容の充実 ②センター的機能による地域の専門性向上の推進 【成果指標】 ①学校HPの更新：10回以上 ②地域の小中学校に対する教育相談等回数：5回以上	成果指標①：達成 学校HP更新：16回 成果指標②：達成 地域支援：6回	
働き方改革をふまえた働きやすい職場環境づくり	○全教職員が生き生きと仕事ができる風通しの良い職場風土を醸成する。 ○学校全体の業務内容を見直し、精選することで教職員の業務の平準化を図る。 【活動指標】 ①本校「教職員満足度調査」による評価 ②日常の教育活動を率直に話し合えるミーティングの開催 ③各学部、校務分掌、委員会等における継続的な業務精選等に係る検討 ④働き方改革の取組 時間外勤務時間の縮減 ⑤働き方改革の取組 計画的な休暇取得の促進 ⑥働き方改革の取組 提示退校日の設定 ⑦働き方改革の取組 効率的な会議運営による時間内終了 【成果指標】 ①「教職員満足度調査」における「日々の仕事へのやりがいや楽しさを感じる」と回答した割合：80%以上 ②小グループでのオフサイトミーティングの実施：2回 ③各学部、校務分掌、委員会等における業務精選等に係る協議：随時 ④-01 1人当たりの月平均時間外労働時間：30時間以下 -02 年360時間を超える時間外労働者の人数：0人 -03 月45時間を超える時間外労働者の延べ人数：0人 ⑤1人当たりの年間休暇取得日数：昨年度比1日増 ⑥定時退校日に退校できた教職員の割合：80%以上 ⑦会議の効率化（放課後1時間以内の会議終了）：100%	成果指標①：達成 満足度調査：86.3% 成果指標②：達成 小Gミーティング：2回 成果指標③：達成 業務精選協議：随時 成果指標④-01：達成 月時間外：2.5時間 (前年度比1.0時間減) 成果指標④-02：達成 年時間外：0人 成果指標④-03：達成 年時間外：0人 成果指標⑤：達成 年間休暇：19.8日 (前年度比3.9日増) 成果指標⑥：達成 定時退校：95.8% (前年度比2.6%増) 成果指標⑦：達成困難 1時間以内の会議：83% (60/72回) (前年度：88.7%)	
改善課題			

- 「信頼される学校作り」「地域への情報発信とセンター的機能の充実」については概ね目標が達成されたことから、引き続き明確な目標を設定し、着実に進めていく必要がある。
- 「働き方改革をふまえた働きやすい職場環境づくり」では、過重労働等に関して前年度比で一定の改善につなげることができたが、会議の効率化については昨年度に続き目標値を達成できなかった。会議の精選に留まらず、個々の会議の目的や所要時間を明確にする等の工夫を講じ、今後の改善につなげていく必要がある。

5 学校関係者評価

明らかにになった改善課題と次への取組方向	●「学校満足度」についてはずっと協議を続けてきたが、最後は保護者と担任との関係性に尽きる。保護者としてどこまで求めて良いか迷っている方は大勢いるはず。 ●学校評価にはPDCAが必須。PとDは学校MSからもよく分かるが、CとAにつながつていない面がある。日々の取組をどう評価し、どう改善するかを考えるべき。 ●担任と子ども・保護者が1対1の経路で結びつくのではなく、複数の経路が持てると良い。教員側も単独での対応は煮詰まる。学校側も保護者側も「みんなで子どもたちをみている」という雰囲気大切。柔らかな連携・ぼんやりした連携こそが重要。 ●学校と保護者が子どもの成長と一緒に喜びあえるか、教育的な価値を共有できているかが大切。そのためには個別の指導計画や教育支援計画を絡めて話し合えると良い。 ●防災は喫緊の課題。家庭・地域との連携を視野に、今できることを冷静に捉えた上で防災マニュアル等も総点検が必要。薬の備蓄等も病院と連携を図っていく必要あり。 ●「教員満足度」が高いのは保護者としても嬉しい。子どもたちは先生方の生き生きと充実した姿をよく見ており、自身も楽しく学校に行ける前提になっている。
-----------------------------	---

6 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	●統一校務支援システムの導入をふまえ、より緊密に保護者・関係機関との連携を図ることで「個別の教育支援計画」等の有効な活用を図るとともに、教科学習と自立活動を明確に整理した教育課程を展開し、個に応じた丁寧な指導を進めたい。「学校満足度調査」は評価指標を継続し、未回答を減ずる工夫をすることで、引き続き保護者のニーズを真摯に受け止めていきたい。 ●居住地校交流実施の困難は、コロナ禍後も続く感染症不安に起因しているため、実効性の高さを重視した方法をブラッシュアップし、相手校含め実施しやすい進め方を模索していきたい。 ●キャリア教育の充実には保護者・関係機関等の協力が不可欠なことから、福祉・労働等行政と連携した保護者向け研修会等を企画運営するなど、計画的、継続的に連携を強化したい。 ●防災等危機管理は学校最大のピンチへの対策であり、保護者や地域と現実的な課題を共有し、実効性を念頭にしたマニュアルの見直しや各種物品備蓄等を速やかに進めていきたい。
学校運営についての改善策	●人権・コンプライアンス研修として「子どもの尊厳の重視」をテーマに取組を継続してきたが、重度重複障がいのある児童生徒への教育支援にあたっての心構えという視点で、今後より踏み込んだ研修に努めたい。 ●働き方改革の一環である会議の効率化について目標未達成となったことから、精選した上で個々の会議については、目的や所要時間を可視化するなど、1時間以内に終了するという意識が持ちやすい工夫を講じていきたい。